

平成27年度 学校評価実施報告書

学校名(京都市立静原小学校)

1 平成27年度 重点評価項目

1. 確かな学力の育成(つけたい力を明確にした言語活動)
2. 豊かな心の育成(自律心と責任感の育成を目指した協働活動)
3. 健やかな体の育成(基本的生活習慣の確立, 体力の向上)

2 1回目評価

重点評価項目について評価・改善していくための個別評価項目の設定						自己評価		学校関係者評価				
各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定						評価日 平成27年10月8日		評価日 平成27年10月14日				
アンケート実施結果、その他指標の結果について整理						評価者・組織 学校評価委員会		評価者(いずれかに○) 学校運営協議会 学校評議員				
分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・各種指標	アンケート結果・各種指標結果		分析 (成果と課題)	自己評価に 対する改善策	学校関係者評価に よる意見	学校運営協議会・学 校評議員による改 善に向けた支援策			
1	確かな学力	確かな個の見取りを核とした自覚的実行力の育成 読書の習慣化 家庭学習の習慣化	自ら学び、行動していくとする子どもを育む工夫 100冊読書の定着 読書ノートの活用 朝読書の確実な実施 学校だよりによる啓発活動	児童の話す・聞く態度の変容・ジョイントプログラムの結果 進んで本を読むことの意識について 家での学習時間はどれくらいか。	⇒	ジョイントプログラム国語・算数の正答率が上昇 ほぼ全校児童が、上半期に読書50冊をクリアしている。 高学年は1時間以上、低学年は30分程度勉強している。	⇒	体験活動などでは、必ず自分の感想をみんなに伝えるようにする取組を続ける。 授業時間には、必ず自分の考えを書くようにする取組を全校で徹底する。 宿題の出し方・量について校内で事例を出し合い見直す。	⇒	運動会を見ていると学校全体が一つになって取り組んでいることが感じられる。いろいろな取組についても同じように取り組まれることを望む。 個に応じた対応をこれからもしていただき、基礎・基本の定着を確実にお願いしたい。	⇒	学校行事への協力をこれからも進めていきたい。 体験活動のボランティア人材整備、人材発掘を進めていきたい。
2	豊かな心	豊かな体験活動の実践 挨拶や望ましい言葉づかいの徹底 自覚的実行力育成を通した豊かな心の育成	ボランティア活動家事手伝いの奨励 農業体験 学校での共通理解と地域ぐるみの取組 各活動を進める中で主体的活動重視や話し合いや協力の場を積極的に作る	家の仕事の手伝いを進んでいますか 子どもは望ましい言葉づかいができていますか 心を大切に「する気持ち」が育っていますか きまりや約束を守っていますか	⇒	「進んでしている」児童の割合は、高学年80%低学年60% 重要度は高いが、実現度は低い(保護者) 「できていない言葉使い」は、教職員や保護者・地域で同じ意識で見逃さず、指導している。	⇒	体験活動で感じたことを、自らの言葉で表現する場を充実させる。 全教職員が見守っていくことをこれからも続けていきたい。 家の仕事の手伝いは、担任、保護者間での連絡を密にとり、役割を持たせて進めていきたい。	⇒	児童が自律していけるよう見守って生きたい。 協働の場面を通して感じたことや今後活かしていきたいことを、もう一度保護者・地域・児童で考える機会を作ることが大切。	⇒	ボランティア活動や地域福祉事業を学校と地域と連携して、充実させていきたい。
3	健やかな体	基本的生活習慣の確立 体力の向上	早寝・早起き・朝ごはんの呼びかけ 遊びやスポーツを通した運動の習慣化 各運動タイムの取組	早寝・早起き・朝ごはんなど規則正しい生活はできていますか 元気に運動していますか 休み時間の運動状況及び体力テストの結果	⇒	10時以降就寝高学年33%7時まで起床高学年100%朝食摂取95% 児童の自己申告は100%運動している。体力向上の伸びていない項目33%	⇒	睡眠時間の確保や回復を考えていきたい。 体を動かすことを意識させていきたい。 保健室だけでなく、学級通信等でも積極的にトピックとして取り上げる。 運動に向かう取組の充実や自発的に体を動かせるよう運動の仕方を紹介していく。	⇒	体を動かす楽しさをみんなで共有できる取組を充実してほしい。	⇒	児童の体力向上に向けて取組を考えたり、保護者への発信をしていきたい。
4	独自の取組	児童の主体的な学習や活動、生活の仕方を目指す 情報発信の充実	必ず行事や活動の後自分の考えを話す取組 自覚的実行力の奨励 積極的なホームページの更新	目標を決めて取り組んでいる児童は100%保護者から見た実現度は低い。 年3回の授業研修会を実施 学校ホームページへのアクセス数	⇒	「個の見取り」の意図的な活用を進めている。育てたい子どもの姿としてイメージして取組を進めている。 ホームページについては、時間のある時に更新しているが、閲覧状況が伸びている。	⇒	校内研究では、個の見取り交流を必ず入れている。 自覚的実行力推進について機会あるごとに話題にして浸透させている。 ホームページは、学年からの発信を増やす方向で更新頻度を上げ、見てもらえるような情報発信を保護者・地域に行う。	⇒	自覚的実行力は、浸透している。児童の自発的・主体的な活動に向けて協力していきたい。 ホームページは見えて楽しい内容になっている。	⇒	地域行事や地域の取組についての価値を考えて積極的参加を増やすようにしていきたい。